

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成30年度）
 — 研究課題 3（5）校種間連携 —

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

1 研究指定校の概要

[中学校]

ふりがな 学 校 名	長万部町立長万部中学校				ふりがな 校長名	はせがわ ひで お 雄 長谷川 秀 雄				公立・国立・私立 (○で囲む)			
所在地	〒049-3516 北海道山越郡長万部町字栄原138番地 電話 01377-2-2064 FAX 01377-2-2633 e-mail : oshamambe-jh@educet03.plala.or.jp												
(平成29.4.1見込)	1 年	2 年	3 年	計	教員組織 臨時的低用の者は常勤の者のみ含む	校長	教頭等	教諭	養護教諭	事務職員	その他	計	
学 級 数	1	1	1	3		1	1	11	1	1	2	17	
生 徒 数	28	29	35	92		特記事項		なし					

[高等学校]

ふりがな 学 校 名	北海道長万部高等学校					ふりがな 校長名	め や のぶ やす 目 谷 信 靖				Ⓐ・国立・私立 (○で囲む)			
所在地	〒049-3516 北海道山越郡長万部町字栄原143番地 1 電話 01377-2-2069 FAX 01377-2-2633 e-mail: oshamanbe-jimu@hokkaido-c.ed.jp													
(平成29.4.1見込)	1 年	2 年	3 年	4 年	計	教員組織 臨時的任用の者は常勤の者のみ含む	校長	教頭等	教諭	養護教諭	事務職員	その他	計	
学 級 数	1	1	1		3		1	1	10	1	3	1	17	
生 徒 数	30	13	26		69	特記事項	なし							

2 研究主題

学校における研究主題	校種間の円滑な接続を核として、社会に開かれた教育課程の編成，指導方法の工夫・改善や世代を超えた人づくりを町づくりにつなげる組織体制・運営の確立に関する研究
------------	---

3 平成29年度の成果と課題

【成 果】

- 「小中高連携を通して身に付けさせたい資質・能力」や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善についての研究協議が行われ、町づくりをテーマとした系統的なキャリア教育や「主体的・対話的」という部分での授業改善が推進された。
- 学校と町が学校づくりと町づくりの課題を共有し、校種間や外部の教育資源との連携・協働を進めたことで「チーム長万部」として、町づくりをテーマとしたキャリア教育の推進ができた。
- 生徒に対する事前，中間，事後のアンケートを分析すると以下のとおりになる。
 - 全体の傾向としては、「そう思う」「だいたいそう思う」の肯定的意見（以下肯定的意見）が、68%→73%→78%（評価平均 2.8→2.9→2.9）と増えている。
 - 項目別では、「地域連携・協働」の肯定的な意見が最も多く、81%→97%→91%（評価平均 3.1→3.3→3.2）となっている。中間での数値が一番高いのは、その直前に全校生徒で「町民ふれあいオリンピック＝町内会対抗の運動会」に参加したことが影響していると考えられる。地域のさまざまな年代の方々との交流・協働を通して、生徒の自己有用感を伴う自己肯定感を高めることができた。
 - 「主体的・対話的で深い学び」の肯定的な意見の伸び率が高く、73%→81%→86%（評価平均 2.9→3.0→3.1）となっている。どの教科・科目，どの学年でも「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進んでいるものと考えられる。
 - 学年別では，第2学年における「町づくりをテーマとしたキャリア教育の充実」での肯定的な意見が，32%→50%→68%（評価平均 2.4→2.5→2.8）と大幅に増えている。家庭科における課題研究（地産地消，マーケティングと町づくり，特産物を活用した新メニューの開発等）の取組が

効果的だったと考えられる。

4 教員に対する事前、中間、事後のアンケートを分析すると以下のとおりになる。

- ・全体の傾向としては、肯定的意見が、64%→73%→83%（評価平均 2.7→2.9→3.1）と増えている。
- ・項目別では、次の項目で肯定的な意見が大幅に増えている。

「資質・能力の共通認識」	36%→45%→67%	（評価平均 2.2→2.4→2.7）
「学びの意識・目的」	82%→82%→100%	（評価平均 2.9→3.0→3.3）
「町づくりをテーマとしたキャリア教育」	55%→55%→83%	（評価平均 2.5→2.6→2.9）
「町の教育連携会議の意義」	27%→55%→67%	（評価平均 2.2→2.6→2.8）
「カリキュラム・マネジメントの推進」	36%→45%→67%	（評価平均 2.3→2.4→2.8）
「指導と評価の一体化の推進」	64%→91%→92%	（評価平均 2.6→3.1→3.2）
- ・「地域連携・協働」，「主体的・対話的で深い学び」，「本事業と地域社会の創造」の項目については、多少の数値の上下はあるものの肯定的な意見が、いずれも 80%を超えており、評価平均値も 3.3 という高い状況にある。
- ・学校全体として、研究指定校事業を前向きに活用し、教員としての資質・能力の向上や新学習指導要領への対応につなげようという意識が高まり、それが様々な教育活動での具体的な取組となっている。

【課 題】

- 1 「社会に開かれた教育課程」の編成に向けて、学校の学びと実際に社会で生き抜いていくことを、どう結び付けるかという課題が残っている。また、校種間連携という観点からは、教員だけではなく、児童生徒同士の学びや交流の機会がまだ少ないと考えられる。
- 2 学習活動を通して教科・科目ごとの「見方・考え方」を働かせ、それを基に創造するといった「深い学び」への取組を推進する必要がある。
- 3 カリキュラム・マネジメントの実現については、行政と学校の「Win-Win の関係」から地域全体を巻き込んだ「Total-Win の関係」を構築する必要がある。
- 4 生徒に対する事前、中間、事後のアンケートを分析すると以下のとおりになる。
 - ・全学年による町民オリンピックへの参加、第 1 学年の総合的な学習の時間における「町づくりプロジェクト」の実施、第 2 学年の家庭科における課題研究（地産地消、マーケティングと町づくり、特産物を活用した新メニューの開発等）の実施後は、それに関連する評価項目で、肯定的な意見が多くなっている。一過性のイベント的な効果とも考えられ、今後、3 年間で系統立てた教育課程にどう落とし込んでいくかを検討する必要がある。
- 5 教員に対する事前、中間、事後のアンケートを分析すると以下のとおりになる。
 - ・「学びの意識・目的」では、肯定的な意見が、生徒では 79%→62%→50%（評価平均 2.7→2.6→2.5）なのに対して、教員では 82%→82%→100%（評価平均 2.9→3.0→3.3）と、数値の推移が真逆傾向になっており、生徒と教員のギャップが広がっていることがわかる。原因を究明するとともに具体的な手立てが必要である。
 - ・町の行事への全校生徒での参加以外では、まだ教科・科目ごと（個人個人）での取組が多い。更に効果的なものにするためには、教科横断的な視点を踏まえた教育課程の見直しも必要である。

4 平成 30 年度の研究計画

（1）本年度の調査研究の重点等

1 社会に開かれた教育課程の編成・実施

小中高で連携した「町づくりをテーマとしたキャリア教育」の充実を一層推進する。また、「学びに向かう力、人間性等」に係る生徒に身に付けさせたい資質・能力を中 1 から高 3 まで系統化、具体化、焦点化していきたい。更に、その系統化、具体化、焦点化した資質・能力を身に付けさせるために生徒が記録したワークシート（キャリア・パスポート）などを中高で持ち上がり、引き継ぐことでよりその効果を高めたい。更に小中高での児童生徒同士の交流を通して、長万部の良さを実感できる体験活動の系統化を推進する。

2 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を一層推進する。また、系統化、具体化、焦点化した資質・能力を身に付けさせるために、授業の中で教科横断、校種縦断で系統化できることを整理していきたい（例えば、「本時の目標や学習過程を同じように示す」「振り返りのワ

ークシートの様式を統一する」等が考えられる)。

3 上記1・2を目指したカリキュラム・マネジメントの実現

生徒や保護者、地域住民によるアンケート結果や生徒によるポートフォリオ等の多面的な評価を基にきめ細やかなPDCAサイクルを実現させる。また、「関係者会議(長万部町教育連携会議)」を町全体の教育力向上のための小中高の教職員のより深い連携を目的とした組織に見直す。更に、教科間(教科横断的な視点を重視)・校種間のつながりを踏まえた教育課程の見直しを行う。

(2) 研究計画 ※ 委員会や会議の回数は、昨年度からの継続回数

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
前期	1 第6回事業推進委員会 ・系統的なキャリア教育の指導計画の検討 ・「町づくり」をテーマとした課題解決学習 ・社会参画への意識を高める指導の在り方の検討 2 第7回関係者会議(長万部町教育連携会議) ・一年次の成果等の報告及び二年次の研究内容の説明 ・小中高大連携における課題解決に向けた研究協議 3 第3回連携教育研究会議 ・二年次の実施計画の確認 4 先進校視察 ・「地域課題解決型キャリア教育」を推進している先進校の視察 5 第7回事業推進委員会 ・先進校視察の報告と活用 ・二年次の進捗状況の確認と課題改善 6 第8回関係者会議(長万部町教育連携会議) ・「町づくりをテーマとしたキャリア教育」の充実と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善についての研究協議① ・先進校視察の報告と活用 ※ 事前・中間アンケート実施(4月・9月実施)及び分析 ※ 学校運営協議会へのオブザーバー参加(通年)	・社会参画(町づくり)への意識を高める指導の工夫 ・主体的・対話的で深い学びや、課題発見・解決のある学びの過程に視点を当てた教科指導等の研究推進(「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進) ・系統的な指導を通して「地域を愛し(理解), 地域を考え(分析), 地域をつくる(創造)」生徒の人材育成 ・コミュニティ・スクールの推進や連携による地域の変化, 地域の魅力及び地域の人材を活かした長万部スタイルの魅力ある学校の創造
後期	1 第9回関係者会議(長万部町教育連携会議) ・「町づくりをテーマとしたキャリア教育」の充実と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善についての研究協議② 2 第10回関係者会議(長万部町教育連携会議) ・「町づくりをテーマとしたキャリア教育」の充実と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善についての研究協議③ 3 第8回事業推進委員会 ・取組の分析に基づく生徒の変容の把握 ・本事業の研究成果の検証 4 第11回関係者会議(長万部町教育連携会議) ・小中高大連携等に係る本事業の研究内容の検証 5 第4回連携教育研究会議 ・本事業の成果の検証及び評価 6 長万部町教育研究発表会 ・本事業の研究成果の報告 7 研究成果報告書の作成 8 研究成果の普及 ・ウェブページや各種発行物への成果の掲載 ※ 事後アンケート実施(2月実施)及び分析	・行政と学校, そして地域の「Total-Win」の関係構築による持続可能な地域社会の創造 ・事前, 中間, 事後アンケートの実施及び分析に基づく成果と課題の把握と改善(「PDCA×3」の活用) ・各分析等に基づく生徒の変容の把握 ・研究成果報告書作成 ・ウェブページ等を用いた研究成果の普及

5 研究のまとめの見通し

1 まとめの方向性（期待される効果）

- (1) 小中高大等校種間の円滑な接続を核として，社会に開かれた教育課程の編成，指導方法の改善及び充実
- (2) 世代を超えた人づくりを町づくりにつなげる組織体制・運営の確立

2 研究成果の検証方法

- (1) 生徒・教員への事前，中間，事後アンケートによる評価
- (2) 生徒による個人内評価を含むポートフォリオ
- (3) 地域住民によるアンケート評価及びヒアリング
- (4) 個別の事業評価
- (5) 連携教育研究会議による評価
- (6) 地元中卒生の長万部高校進学率の変化

3 研究成果の普及

- (1) 研究成果報告書の作成及び配布
- (2) 管内各学校種の研究会等における研究成果の発表
- (3) ウェブページ，各種発行物への研究成果の掲載